

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第4地区）

図画工作		開隆堂出版
総 評		<p>児童が主体的に学習できるよう、各学年の発達段階に応じてテーマが設けられており、系統立てて対話的な学びが確立していくような課題設定や写真のレイアウトの工夫がある。学校調査においても「QRコードが記載されており、材料・用具の適切な扱い方を動画で見られるので効果的にICTを活用できる。」と評価しており学校現場の実態に合っている。</p> <p>造形遊びの題材では、活動後に再び使うことが難しいような材料が複数取り上げられており、環境教育の観点からも、現場の実態に合わない部分がある。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的・対話的で深い学びが実現できるように題材ごとに活動の方向性やめあてが明確に示されている。③</li> <li>○ 学年の発達段階に応じて発想や構想に関する思考力、判断力、表現力を育成するように題材ごとに学習のめあてが3観点で示されている。④</li> </ul>
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料や用具の安全な扱い方の注意、片付け方が示されている。⑦</li> <li>○ 題材ごとに取り扱う材料用具が明確に示されている。⑦</li> <li>○ 身近な児童の作品を例として提示することで造形意欲を高める題材がみられる。(3・4年下 P.31) ②③</li> <li>○ 全学年の作品例の横に紹介文があるので作者の思いがわかりやすく、自分の見方や感じ方を深められる。③</li> </ul>
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 写真が大きく余白も大きいため児童にとって読みやすい。②④</li> <li>○ 表紙のタイトルの言葉やフォントが工夫されており、児童の興味を引き付ける。①②</li> </ul>
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図画工作科の領域がバランスよく配列されている。①</li> <li>○ 学年の発達段階に応じて系統的な題材選びがされている。①</li> </ul>
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年に工作で「ひらめきコーナー」があり、身近な素材である紙の操作が系統立てて紹介されている。②</li> <li>○ 5・6年下(P.47)では、キャリア教育と小中連携に関する活動例を示している。①②</li> <li>○ QRコードで作品例や材料・用具の取り扱い方が動画で見られるので、活動のヒントになる。また、巻末にも「造形の引き出し」のページに写真でわかりやすく紹介されている。②</li> </ul>
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳教育との関連に具体性が乏しい。⑤</li> </ul>
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1・2年上「いろいろならべて」と、3・4年上「あみあみ大きくせん」、3・4年下「わくわくネイチャーランド」では材料をその後使用する事が難しい。④</li> </ul>
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 黄色と黄緑色が並んでいるなど、ユニバーサルカラーになっていないところがある。(1・2年下表紙、P.34 題字、3・4年 P.28) ③</li> </ul>
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他教科との関連が教科名だけで、明確でない。①</li> <li>○ 造形遊びの取り扱いが中学年、高学年で少ない。①</li> </ul>
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ QRコード記載ページがわかりにくい。①</li> </ul>

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第4地区）

図画工作		日本文教出版
総 評		<p>児童が発想や構想を広げ創造活動のきっかけになるような題材が、レイアウトを工夫した多くの活動や作品の写真で示されている。各題材について資質・能力の三つの柱に基づいてめあてが示され、学習する内容が理解しやすく構成されている。学校現場で実践しやすいよう身近な材料が多く取り上げられている。</p> <p>吹き出し等を使った細かな解説は、児童の想像を制約しないよう配慮が必要である。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が主体的に取り組む意欲を高める題材が示されている。③</li> <li>○ 発達段階を考慮し豊かな表現力を発揮できるよう工夫されている。④</li> <li>○ 対話的場面が多く取り上げられ、授業改善につながる構成になっている。③</li> </ul>
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な材料を取り扱い、その形や色から造形的な視点で表現が広がる題材が取り上げられている。①②（1・2年上P.48等）</li> <li>○ 模範的な作品を取り上げるのではなく、身近な作品を提示することで造形意欲を高める題材がみられる。②③（5・6年上P.46等）</li> <li>○ 新材料で発想を広げ活動を楽しむことができる。③④（3・4年上P.50等）</li> <li>○ 工夫して作り出す喜びとそれを楽しむ題材が示されている。④（3・4年下P.12等）</li> <li>○ 造形物を使うことで生活の中で色や形と豊かに関わることができる。①（5・6年上P.24等）</li> <li>○ 「ひらめきポケット」は行為・活動をテーマにユニークな視点で発想の広がりにつながることを期待される。③（1・2年下P.34等）</li> <li>○ 児童の興味・関心を高め、イメージを膨らませながら、多様な表現を引き出すことができる題材が工夫されている。②③（全）</li> </ul>
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表紙に児童の絵が用いられ親しみやすい。①</li> <li>○ 写真が鮮明で多くわかりやすい。③</li> <li>○ 題材名の色やフォントにも工夫がみられる。②</li> </ul>
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科横断的な視点で題材が工夫されている。①</li> <li>○ 学年の発達段階に応じて系統的な題材選びがなされている。①</li> <li>○ 図画工作科の各領域がバランスよく配列されている。①</li> </ul>
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭見開きページの「教科書美術館」の写真資料は生活の中の色や形に焦点をあて児童の意欲を高めている。②</li> <li>○ 巻末には学年に応じた材料用具の扱いが丁寧に示されている。①</li> <li>○ 身近な美術作品の取り上げ方が的確である。②</li> </ul>
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳教育との関連に具体性が乏しい。⑤</li> </ul>
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現と鑑賞の相互の関連が理解しにくい⑥</li> </ul>
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特に高学年ではフォントが小さめで読みづらさがある。②</li> </ul>
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科横断的な視点での構成が十分とは言えない。①</li> </ul>
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料について説明的な文章が多く情報量が多いが意欲の低下に結び付く恐れもある。②</li> </ul>